

総合型地域スポーツクラブ 公式メールマガジン

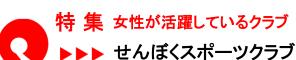
このメールマガジンはスポーツ振興くじ助成金を受けて配信しています。 スポーツ振興くじについてはこちらから [日本スポーツ振興センターHP] http://www.jpnsport.go.jp/

スポーツくじ 👐





スポーツ振興くじ助成事業



▶▶▶ 特定非営利活動法人ヨロンSC

特別企画 様々な団体と連携しているクラブ

読者アンケートの結果について

詳細

- お知らせ▶▶▶ 詳細
- バックナンバー▶▶▶ 詳細







🧻 特 集

女性が活躍しているクラブ



せんぼくスポーツクラブ



<秋田県大仙市>

総合型クラブの活動基盤・活動環境をより充実させるためには、地域住民から必要不可欠な存在であると認識されることが重要であり、そのためには、地域づくりまでも視野に入れ、スポーツの「楽しさや喜び」を拡充し普及させる「公益的な活動」を行うことが求められます。

そこで今回は、指導者としても事務局員としても活躍している女性がいるクラブについてご紹介 いたします。

1

クラブ概要

仙北地域を拠点に会員数は70名 女性インストラクターは3名

平成29年10月26日に設立された「せんぼくスポーツクラブ」は、大仙市仙北地域を活動拠点に、子どもから高齢者まで多世代の地域住民に健康づくりの場を提供しています。スポーツを通じて体力維持や増進、子どもの居場所づくり、世代間交流、地域活性化など地域に密着した事業を行うことを目的とした総合型地域スポーツクラブです。

会員数は70名で、小学生を対象とした陸上教室から高齢者対象の元気アップ運動教室まで、幅広い世代の会員が参加しています。事務局はクラブマネジャー(男性)と事務局兼インストラクター(女性)の2名で、それ以外のインストラクターは4名(女性2、男性2)。和気あいあい、笑顔あふれる総合型地域スポーツクラブを目指しています。

(2)

クラブ運営のきっかけ

寄付財源組織の解散を契機に新クラブ立ち上げ

仙北地域は、大仙市内で唯一総合型地域スポーツクラブが無い地域でした。その背景には 地元篤志家による寄付財源を活用した「健康体力つくり推進委員会」という組織により、地域住 民のための健康体力つくりイベントや教室を長年開催してきた実績があり、新規組織を立ち上 げる必要が無かったからです。しかし、地元篤志家による寄付財源も低金利等により枯渇し、 「健康体力つくり推進委員会」という組織の解散を考えざるを得ない状況になってきました。そこ で地域住民の健康維持や健康増進のための機会を継続するために、後継組織として総合型 地域スポーツクラブ「せんぼくスポーツクラブ」を立ち上げることになりました。



設立準備委員会の一人がJSPO資格を取得しクラブ設立

地域内の団体代表者や有識者による設立準備委員会が平成29年3月に設けられ、準備委員会の委員の一人であった山崎文幸現クラブマネジャーが同年に日本スポーツ協会のアシスタントマネジャーの講習を受け、平成29年10月にクラブを設立しました。11月には秋田県から秋田県総合型地域スポーツクラブとして認定を受け、本格的に活動を開始しました。

平成30年度から定期的な教室を開催するに当たり、伊藤歩美事務局兼インストラクターが加入して今日に至ります。

(3)

女性の視点で活躍するインストラクター

モダンバレエ経験者の女性インストラクターの教室が好評

インストラクターの伊藤さんは、以前よりモダンバレエの指導をしており、自らもダンサーとして活動していました。

同級生の父親であるクラブマネジャーに誘われてスポーツクラブに入ってからは、モダンバレエの体幹トレーニングを基礎とした健康体操を指導していました。また、ピラティス指導者資格や秋田県元気アップ運動指導者資格等を取得するなど自らのスキルアップに努め、これらを取り入れた中高年を対象とした運動教室は好評を得ております。

運動意欲を高める工夫と次回に向けた意見交換→リピーター増

インストラクターの伊藤さんは、「無理なく笑顔で」をモットーとしており、和気あいあいのムードで体力のない女性でも、少しずつ少しずつ参加者の運動意欲を高めていくので、「気がついたらこんな運動もできちゃった!」という声も少なくありません。運動メニューを毎回少しずつ変えて飽きさせない工夫も重ねており、リピーターが増えています。毎回終了後にクラブマネジャーとインストラクターとで意見交換を行い参加者の反応や要望を次回に反映しており、更なる充実に向けての努力も欠かしません。

地域出前健康教室にも取り組む

また、地域課題である少子高齢化や冬期間の運動不足対策にも力を入れており、「来なければこちらが行けばいい!」と地域出前健康教室にも力を入れています。令和元年度は地域住民の地区レクリエーションや小学校の男女問わず楽しめる学年レクリエーション、大仙市役所仙北支所隣の「さくまろ館」などに出向き、要望に応える形でニュースポーツやゲーム、健康体操を指導しています。令和2年度は新型コロナウイルス感染予防のため地域出前健康教室の開催はかなり限定されたものとなりましたが、小学生を対象にニュースポーツ教室、地域住民を対象に健康体操を実施することができました。



地域出前健康教室(地区レクリエーション)



地域出前健康教室(児童クラブ)



地域出前健康教室(地域公民館まつり)

身近なきっかけも教室に生かす

インストラクターの伊藤さんの自宅には介護を必要とするご祖母様がいらっしゃることから、高齢者の健康維持に課題を感じていました。特に、雪が多い冬の間に家に引きこもりがちになることから、地域の高齢者の運動不足を解消する手助けとなるような運動機会の創造をスポーツクラブに提案しました。そして、秋田県スポーツ科学センター事業の「元気アップ運動教室」をクラブで開催することができました。冬期間限定の「元気アップ運動教室」でしたが、参加者からの継続要望に応える形で、4月からせんぼくスポーツクラブの定期教室として開催することになりました。地域の高齢者の引きこもり解消や健康維持・増進に効果が期待されています。

現在は、ご祖母様の介護で感じた運動機能の回復運動や脳トレーニングを「元気アップ運動教室」の指導に反映するなど、細やかな気配りや心配りが参加者の心の支えとなっています。

行政から委嘱され地域課題にも取り組むインストラクター

インストラクターの伊藤さんは、スポーツクラブでの活動が評価され、現在は行政から委嘱されて 大仙市仙北地域協議会委員として地域課題に取り組んでいます。SNSでは写真を工夫し絵文字を 使うなどして読みやすく面白い内容を投稿したり、会員一人一人と積極的にコミュニケーションを図 ることで会員が訪れやすい環境を作るなど、事務局員としてクラブにも明るい風を取り入れ、地域課 題の解決にも貢献できればと真剣に取り組んでいます。

4

クラブ自立のためにも財政基盤の確立を

せんぼくスポーツクラブは、総合型地域スポーツクラブとして徐々に地域に浸透してきている 感触はありますが、残念ながらまだまだ財源的に不安があり、運営自立できる状態ではありま せん。課題として、自立できるだけの財政的な基盤の確立、クラブマネジャーの後継者育成、 指導者の確保などがありますが、地域住民のニーズを一つずつ丹念に拾っていくことで伸びし ろはまだまだあると考えています。

「無理せず、楽しく、笑顔」をモットーに、クラブマネジャーとインストラクターの、親子のようなコンビで協力しながら一歩一歩前進していければと考えております。

(せんぼくスポーツクラブ クラブマネジャー 山崎 文幸)



元気アップ運動教室

クラブ プロフィール

設立年月日 平成29年10月26日

所在地 秋田県大仙市

運 営 会員数70名(令和3年2月現在)、予算規模700万円(令和2年度)

特 徴 子どもから高齢者まで多世代の地域住民に健康づくりの場を提供し、スポーツを

通じて体力維持や増進、子どもの居場所づくり、世代間交流、地域活性化など地域

に密着した事業を行うことを目的とした総合型地域スポーツクラブです。

「無理せず、楽しく、笑顔」をモットーにして活動しています。

連絡先 〒014-0113 大仙市堀見内字元田茂木7-1

TEL 0187-69-3333 FAX 0187-69-2106 URL https://www.facebook.com/senbokusc

E-Mail senbokusc@yahoo.co.jp



特別企画

様々な団体と連携しているクラブ



特定非営利活動法人ヨロンSC <鹿児島県与論町>



総合型クラブが地域に定着し、浸透するためには、地域との一体感の醸成が重要となります。 そのためには、地域社会からの信頼性を確保し、各種機関・団体との相互補助の関係を築くこ とが必要となってきます。

そこで今回は、他団体と連携し、充実した活動を行っている総合型クラブをご紹介いたします。



クラブ概要

鹿児島県最南端の与論島で活動

当クラブは、鹿児島から南へ約560km、南方海上23km先に沖縄本島を望む鹿児島県最南 端の島で、エメラルドグリーンの美しい海とサンゴ礁に囲まれた周囲23kmの与論町全域が活 動エリアです。

与論島の地域課題として、町民所得が低くスポーツへの費用負担が難しいこと、少子化によ リスポーツ少年団や学校部活動の種目減少が進んでいること、屋外での運動や自然体験機会 の減少、それに伴う子どもの体力の低下等が挙げられます。

全教室に追加料金無しで参加可能 年会費は大人6千円

平成17年(2005年)に教育委員会主導の下、設立準備委員会を立ち上げ、平成19年3月16日 に設立、平成25年2月にNPO法人として認証されました。

与論町体育協会と当時の体育指導委員(現スポーツ推進委員)を中心に立ち上げ、18種目の スポーツ教室やサークル、イベントの開催からスタートしました。

会費は、大人の場合年会費6,000円で、高校生以下と55歳以上は3,000円、ペア11,000円、 ファミリー12.000円(未就学児はファミリーで入会)となっています。会員はクラブ主催の全ての 教室(イベントや特別教室を除く)に追加料金無しで参加できるシステムにしており、ビジターも 1回500円(高校生以下200円)で参加できます。このように、安価で多くの種目に、気軽にいつ でも誰でも参加できる環境づくりに努めています。



指定管理委託を転機に島全体が活動の場に

平成24、25年度に与論町から公共体育施設や中央公民館の指定管理委託を受け、活動拠点と人材の確保ができたことで、新たに幼児・小学生向けの水泳教室や島外からの観光客・修学旅行生を対象としたカヌー教室、サイクリングツアー、親子キャンプを開催する等、活動の場(種目)をプールや海、島全体に広げることができました。現在では、13種目19教室の定期教室を中心に年間競技のリーグ戦3種目、不定期に行う大会やイベントを多数開催しています。

会員数は473名(令和3年3月1日現在)、登録指導者は61名。職員は、指定管理委託事業に携わる16名(パート・委託契約含む)です。公共施設の管理運営を行いながら、子どもから高齢者まで気軽にスポーツや文化活動ができる環境づくりと、生涯を通じた健康・体力の向上による医療費の削減や地域社会のコミュニティづくりに努めています。

令和2年度については、新型コロナウイルス感染拡大の影響により教室や大会・イベントの中 止や自粛を余儀なくされたものの、年間延べ1万3千人の皆さんにスポーツや文化活動を楽し んでいただいています。

2

)各団体との連携内容

【連携団体1:与論町教育委員会(行政)】 会員募集、イベント周知、財政面でメリット

連携の動機:全町民へ1情報発信(広報)および活動拠点が必要

事業の内容:全町民(全戸)向け文書無料配布および会場使用料の免除支援

●与論町教育委員会(行政)のバックアップもばっちり!

与論町内全戸への文書配布システムにパンフレットやイベント案内を無料で封入できることで、 会員募集案内やイベントの周知が容易にできます。また、指定管理を受けている公共体育施 設等でのクラブ主催教室が無料(免除)で利用可能なため、財政面でとても助かっています。町 としてもクラブ活動への参加による健康維持増進や公共施設の利用促進につながり、相互補 助が図られています。

◇文書配布については、配布する担当町民の負担軽減のため紙媒体の減量化に努めています。また、公共施設の利用が独占的・優先的にならないよう公平な予約管理に努めています。

【連携団体2:与論町体育協会およびスポーツ推進委員】 専門的な指導者を安定的に確保

連携の動機: 与論島は小さな離島であり、限られた人口・人材の中で指導者の確保が困難 事業の内容: スポーツクラブへの指導者(世話役)の派遣

●体育協会傘下の各スポーツ連盟との強い絆で指導者(ほぼボランティア)を確保

与論町は、人口約5,200人の小さな離島のため専門的で高度な指導者の確保が困難です。このため、定期的に指導者を招聘(しょうへい)することができません。

教室運営に不可欠な指導者を安定的に、しかも複数人確保する必要性があることから、クラブ設立当初からスポーツ連盟やスポーツ推進委員と連携し指導者数人の派遣を受けています。スポーツ連盟にとっても競技力の向上や連盟会員の確保、後継者の育成につながるため協力的です。指導料は1回500円と少額ですが、指導者もスポーツクラブの会員として入会してもらい、大半の教室は、複数人指導者がいるサークルに近い形で運営することで、指導者本人も競技を楽しみながら参加できるようにしています。また、イベント運営にも協力していただくことで、より専門的で充実したイベントが開催できます。

連携先:サッカー連盟、野球連盟、卓球連盟、バスケットボール連盟、バドミントン連盟、 テニス連盟、水泳連盟、スポーツ推進委員ほか



<ヨロンSC杯少年サッカー大会> サッカー連盟の全面協力で運営しています。

【連携団体3:与論町保健センター(行政)】 イベントの合同開催で集客力が向上し成果も生まれる

連携の動機:イベントの合同開催による集客力および啓発効果の向上が必要 事業の内容:スポーツクラブと保健センターの連携によるイベントの合同開催

●保健センターとの協力タッグで健康づくり

当クラブ主催の「スポーツクラブ感謝祭」は、当初単独でスポーツ体験会やフリーマーケットを 開催していましたが、保健センターの健康啓発事業「よろん健康フェスタ」と合同開催することで より効果的な集客と事業成果につながりました。

また、クラブが行う健康ウォークイベントに看護師の派遣協力をしていただくことで、より安全 安心な事業運営につながっています。



<ヨロンSC感謝祭> 与論町保健センター「よろん健康フェスタ」と 合同開催して大盛況の様子

【連携団体4:3ロン島観光協会、商工会、観光事業者】 修学旅行生、観光客向けの体験・イベントで連携

連携の動機:修学旅行生や観光客のニーズに適した受け入れ態勢・運営協力の構築 事業の内容:スポーツ教室や管理施設を利用したスポーツ交流、イベントの開催とスタッフの派 遣

●地域経済の柱「観光事業」でも連携!

与論島は観光地でもあることから、当クラブでも修学旅行生や観光客向けのスポーツ体験や 文化体験の受け入れを積極的に行っており、カヌー教室等のマリンスポーツや島内観光への ガイド派遣をはじめゲートボール交流やウォーキングイベントを開催することで観光振興を図っ ています。

また、島外旅行会社やスポーツ団体からのスポーツ交流や合宿の要望に対し、島内のスポーツ団体との間に入りイベントのセッティングや運営を行うことで新規観光客・交流人口の獲得にも貢献しています。(サッカー合宿・交流、ゲートボール交流、ウォーキングイベント等)

昨年からはコロナの影響で観光客も激減し、島内経済にも大打撃を与えていますが、2015年から2019年までの観光客数は増加傾向にあります。

また、修学旅行では、教育旅行の観点から学校側のニーズも多様化しており、その様々なニーズへの対応が必要となります。その受け皿となり、イベント等を実施することによって生徒たちの感動や満足感につながり、リピーター(教育旅行の継続来島)という効果が生まれています。



<カヌーツーリング> ヨロン島観光協会との連携で、修学旅行生等の マリン体験の様子



<ヨロンパナウル健康ウォーク> 商工会青年部との連携で毎年開催している ウォーキングのイベントです。

【連携団体5:島内小中学校】

小中学校へ指導者を派遣-島内小中学校

連携の経緯: 学校での専門職員の不足等のため、学校側から人材派遣・運営協力の依頼 事業の内容: 学校への専門職員の派遣や運営協力

●子どもたちの健全育成のために

島内小中学校での水泳授業への水泳指導者の派遣や宿泊学習へのキャンプ指導者の派遣を行っています。また、休日の中学校運動部活動の段階的な地域移行への準備を進めています。



指定管理事業に頼らず自主財源確保を目指す

当クラブは、利用会員の会費のみでの運営が厳しく、財源確保のため指定管理という手段を選んだ経緯があります。当初は、指定管理事業の責任の重さと業務量の多さもあり、クラブ運営との両立が困難な時期もありましたが、経験と実績を積むにつれ、その価値と有効性に気付かされました。

それは、公共施設を管理運営する中で、全ての事業に大切な人材やクラブ運営に欠かせない活動拠点、成長や向上に必要な人脈、多くの町民と触れ合う機会等が得られると感じています。それらを生かすも殺すも私たちスタッフの行動にかかっています。

指定管理事業に頼り過ぎること無く、それを有効活用しながら、クラブ事業単独での自立に向けた自主財源の確保に取り組みます。

また、島内外の他団体との連携を広げ、「チーム与論島」として様々な地域課題に取り組む体制を構築していくことで、今後のクラブ運営の可能性に夢が膨らんでいます。



今後の展望

連携(相互補助)を全国で!

全国の総合型クラブのネットワークを活用して、クラブの相互利用(無料や割引)ができる仕組みをつくりたいと思っています。共通カードやアプリ等により会員登録し、事前に予約をすることで相互に無料または割引価格で利用できることでクラブの価値を高められると思います。与論島のようにトップアスリートや質の高い指導者と触れ合う機会が無い、最先端のスポーツ器具や施設が整っていない等の実情があり、特に子どもたちにそのような機会をつくりたいと願う

クラブも多いのではないでしょうか。また、都会のクラブ会員には、与論島への旅行ついでにスポーツや文化交流をしたいとの要望があるはずで、そんな方にとても有益だと考えています。 課題は山積していますが、まずはクラブ間の交流から始めてみたいと思います。

地域に貢献する人材バンクの役割を担うクラブへ!

クラブ専属スタッフ1名の雇用と、その自主財源の確保を実現し、与論島の地域課題解決の 一助になれるよう、島内外の様々な人材・団体と連携した人材バンクをつくりたいと思います。

幼児プログラムから介護予防まで事業展開を!

現在は、幼児水泳教室や小学生の野球とサッカーに始まり、年齢制限のないバドミントンやピンポン、フットサル等のスポーツ教室や音楽教室に限られています。今後は、地域で一層連携しながら、子育て支援や幼児プログラム、高齢者のスポーツ教室や介護予防プログラム、障がい者に優しい運動教室等の活動プログラムを地域に提供できるよう事業展開したいと考えています。

そのためには、様々な社会的インフラの整備や経済的バックアップも必要ですし、人材の確保と人材育成、スキルの蓄積と共有等、課題を一つずつ解決していこうと思います。

(特定非営利活動法人ヨロンSC クラブマネジャー 柳田 孝志)

クラブ プロフィール

設立年月日 平成19年3月16日

所在地 鹿児島県大島郡与論町

運営 会員数473名(令和3年3月現在)、予算規模7,470万円(令和2年度)

特 徴・・与論島という美しい海や自然に恵まれた環境の中で活動ができる

・安価で多種多様な教室やイベントに気軽に参加できる

小さな島ですが活動拠点が充実していて移動が楽で参加しやすい

・地域の人のつながりが強く、地域全体で支え・見守る環境である

・地域や他団体との連携が取れており、様々な事業や地域課題に柔軟に対応できる

連絡先 〒891-9301 鹿児島県大島郡与論町茶花2045

TEL/FAX 0997-97-5023 URL https://yoronsc.com

E-Mail <u>yoronsc@salsa.ocn.ne.jp</u>



3アンケート結果

令和2年度総合型クラブ公式メールマガジン 読者アンケートの結果について



~最も関心が高かったテーマは?~

令和3年2月5日から21日にかけて行いました読者アンケートについて、225名の方にご協力い ただきました。誠にありがとうございました!

■回答者の内訳

回答者の年代は、50歳代が69名(31%)、60歳代が68名(30%)、40歳代が45名(20%)で、40歳代 から60歳代で8割を超える結果となりました。

また、所属等については、運営スタッフや指導者等のクラブ関係者が140名(64%)、次いで 都道府県体育・スポーツ協会や広域スポーツセンター等のスポーツ団体関係者の57名(26%) となりました。

■最も関心が高かったテーマ

令和2年度配信したメールマガジンの中で、最もおもしろかったテーマについては「学校運動 部活動との連携」が回答者のうち半数以上(120件)の方に選ばれました。今後取り上げてほし いテーマについても、学校運動部活動に関するテーマが多く挙げられており、皆様が学校運動 部活動について大きな関心を寄せていることがわかる結果となりました。来年度以降も引き続 きメールマガジンにて学校運動部活動との連携についての情報配信に務めてまいります。

また、都道府県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会加入クラブや都道府県体育・スポーツ 協会等の担当者等にご参加いただく、ブロック別クラブネットワークアクション2021の共通プロ グラムにおいて「運動部活動改革についての情報共有」をテーマに実施いたします。開催に向 けた準備が整いましたら(8~9月頃予定)、本メールマガジンや都道府県総合型地域スポーツ クラブ連絡協議会を通じて加入クラブの皆様にご案内いたしますので、奮ってご参加くださいま すようお願い致します。

最後に、改めましてメールマガジンへのご登録および読者アンケートへのご回答にご協力い ただきまして感謝申し上げます。

メールマガジンを通じて、今後も皆様に有益な情報をお届けできるよう配信してまいります。 総合型クラブの育成・支援に引き続きご協力のほど宜しくお願い致します。

以下に読者アンケート結果の詳細についてご紹介いたします。



【読者アンケート結果】

I. ご回答者情報について

<u>1. 性別</u> (n=224)

男性 176件

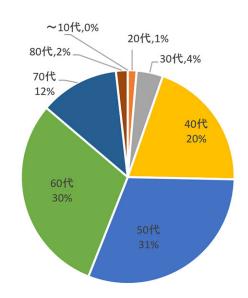
女性 47件

回答しない 1件



2. 年代 (n=225)

~ 10代	0件
20代	3件
30代	9件
40代	45件
50代	69件
60代	68件
70代	27件



3. 所属(n=220)

80代

クラブ関係者(運営スタッフ・指導者等)

4件

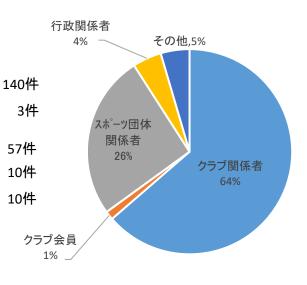
クラブ会員

スポーツ団体関係者(体育・スポーツ協会、

広域スポーツセンター、スポーツ推進委員等) 57件

行政関係者

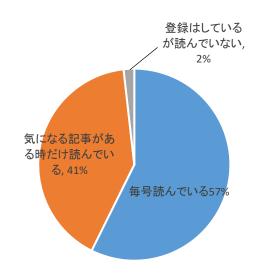
その他



Ⅱ. メールマガジンの内容について

<u>1. メールマガジンを読む頻度</u> (n=225)

毎号読んでいる129件気になる記事がある時だけ読んでいる92件登録はしているが読んでいない4件



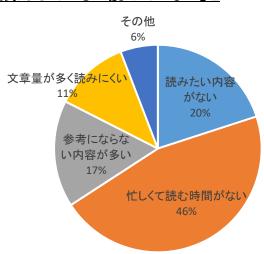
2. 「気になる記事がある時だけ読んでいる」「登録はしているが読んでいない」と

<u>回答された理由</u> (**複数回答可**) 読みたい内容がない 24件

忙しくて読む時間がない 55件 参考にならない内容が多い 20件

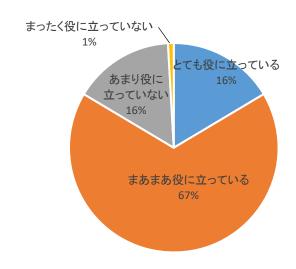
文章量が多く読みにくい 14件

その他 7件



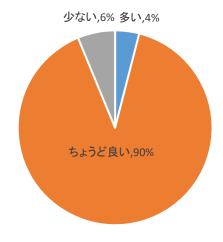
<u>3. メールマガジンの内容</u> (n=225)

とても役に立っている 37件 まあまあ役に立っている 151件 あまり役に立っていない 35件 まったく役に立っていない 2件



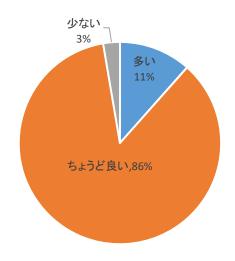
<u>4. メールマガジンの配信回数</u> (n=225)

多い9件ちょうど良い202件少ない14件



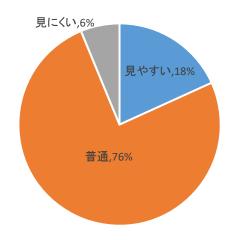
<u>5. メールマガジンの配信文量</u> (n=225)

多い 26件 ちょうど良い 193件 少ない 6件



<u>6. メールマガジンの記事レイアウト</u> (n=225)

見やすい 41件 普通 170件 見にくい 14件



7. 今年度おもしろかった特集・企画タイトル (複数回答可)

1位	学校運動部活動と連携するクラブ	120件
2位	安定的な財源の確保に取り組むクラブ	82件
3位	人材育成に取り組むクラブ	71件
4位	公共施設を活用しているクラブ	67件
5位	我がクラブのコロナ対策	58件

8. 「学校運動部活動と連携するクラブ」を選択した理由 (回答一部抜粋)

- ・地元の中学校などとの連携の取り方を知りたいから。
- ・先のスポーツのあり方がどうなっていくのか関心があります。
- ・今後、休日部活動の地域移行が大きな課題となりそうだから。
- ・今後、最も重要な地域課題と考えているから
- ・少子化の中の部活の方向性
- ・自クラブはすでに連携しており、他市町からの問い合わせもあるため
- ・今後のクラブ運営に欠かせない中学校の部活動との連携についてクラブとして どのように関われるのか?を探りたかった。

9. 今後取り上げてほしいテーマやクラブ (回答一部抜粋)

- 部活動課題をさらに深めていただきたい。
- ・中学校部活動等との連携について
- ・部活動の受け皿としてうまくやっていくクラブを取り上げてほしい。
- ・総合型クラブと運動部活動との連携事例
- ・中学校の武道授業と部活動との連携、その対応と課題
- ・行政、学校関係との連帯

■学校の働き方改革を踏まえた部活動改革

スポーツ庁では、運動部活動について、顧問となる教師の長時間労働や、競技経験がないために、生徒が望む専門的な指導ができない等の課題に対し、生徒にとって望ましいスポーツ環境を構築するという観点から、運動部活動が多様な形で最適に実施されることを目指し、改革に取り組んでいます。その第一歩として、令和5年度以降の休日部活動の段階的な地域移行を図ることとしております。

来年度からは地域人材の確保や費用負担の在り方、運営団体の確保などの課題に総合的に取り組むために、全国各地の拠点校(地域)において実践研究が実施されます。

●スポーツ庁 学校の働き方改革を踏まえた部活動改革

https://www.mext.go.jp/sports/b menu/sports/mcatetop04/list/detail/1406073 00003.htm



お知らせ

B&G財団(公益財団法人ブルーシー・アンド・グリーンランド財団)よりお知らせ

2021年度B&G海洋クラブへの登録募集のご案内

B&G海洋クラブとは、マリンスポーツ活動や、海や川、湖での環境学習、環境保全活動などの、 水辺の自然体験活動を通して、地域の子どもたちの健全育成、地域貢献活動を行う組織です。 海洋クラブとして登録された団体は、B&G財団より、活動への支援として活動器材(上限50~200万 円)が配備されます。

対象は、主にマリンスポーツや環境学習等の推進を希望する民間団体・自治体、NPO法人や任 意団体などの既存団体、新規で団体を立ち上げて新たに活動を始める新規団体(個人による申 請)となります。

ぜひご応募ください。

[登録申請期間]2021年4月1日(木) ~ 5月31日(月) 必着

B&G海洋クラブ募集ページはこちら

https://www.bgf.or.jp/club/index.html

2021年度 クラブ登録の手引きはこちら

https://www.bgf.or.jp/club/file/2021 clubtebiki.pdf

